

# 日向

栗山政子

拾ひたる昼の木の実に夜が来る  
 流るるは白雲か吾か水の秋  
 たつぷりと日向を歩き櫛紅葉  
 黄落を浴ぶ活字より目を離し  
 桔梗の蕾を裂いて去る生徒  
 ともしびの途切れ金木犀強気  
 メモ書きが本より落ちて帰り花  
 郵便受けに十一月の薄日  
 馬鹿みたいと登校のこゑ冬霞  
 白日の杜の落葉のかぐはしく